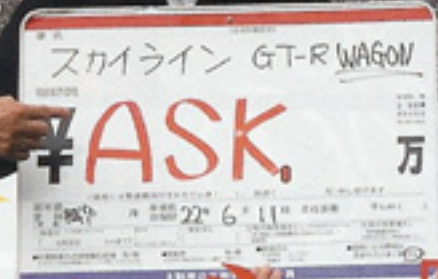


当時はブルーメタリックのボディに赤いサイドストライプとボルクレーシングのロゴが入っていたけど、いまはホワイト&シルバー2トーンのJDMオプションカラーになっている。「もちろん、オーナーの好きな色にオールペンしてからの納車も可能やて」と牧原サン。



興味あるひとは
 まず連絡してみてな

トライアル
 マッキー牧原



売りたい!! 『GT-Rスピードワゴン』

センターコンソールの純正3連メーターとエアコン操作パネルを移設して2DINのナビシステムをインストール。メーターパネルはニスモナビインマルチメーターに交換され、中央のディスプレイにはHKS CAMPIによって各種情報が表示される。



シートは表皮を赤にしたレカロSR-IIの特注品で、GT-Rスピードワゴンのために4脚だけつくられたモノ。4脚? そう、リヤシートも完全セパレートとされているのだ。

いちばんの見どころといえるリヤゲートまわり。GAシティのルーフとハッチを溶接で接合しているのだ。それによって低下するボディ剛性は、セーフティ21のワンオフロールオーバーで確保。また、尾林ファクトリーによるこだわりのオーディオシステムにも注目だ。



OPT 95年12月号から97年5月号まで約1年半にわたった連載企画「GT-Rスピードワゴン」。デビューしたばかりのBCNR33をベースにワゴンをつくる…そんな壮大にして無謀な(?)計画をDaiが立て、タイミンがイイのかわるのか、納車直後に追突されてしまったトライアルのBCNR33がドナーとなってスタートした。開発コンセプトとして掲げられたのは「世界最速ワゴン」。シロマがボディメイクを手がけ、エンジンチューンはHKSが担当。最終的には2・7ℓ+GT2540ツイン仕様で637ps/65kgmを発揮し、最高速304・8km/h、ゼロヨン11秒89、筑波1分4秒452をマークするなど、みこと目標を達成したのだ。もちろん、BCNR33ベースのワゴンなんて、世界中どこを探したってコレ1台しかない。そんな希少にして由緒正しきチューニングカーが、トライアルから売りに出されることになった。「つくってからもう10年以上経つし、ウチで持っても飾っとくだけやからもったいないやろ。チューニングカー

は走らせなかん。せやから、ホンマにほしい! 思うとるひとに譲ろう思っつてな」とトライアル代表の牧原サン。走りも注目度もバググンのGT-Rスピードワゴンを手に入れる最初で最後のチャンス。気になったひとは、いまずくトライアルに☎だ!!

